

製品名: リン酸化 Bad (S112) (4M2) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe05858**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IP 1:20-1:50
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	BAD
別名	BAD; BBC2; BBC6; BCL2L8;
遺伝子 ID	572.0
SwissProt ID	Q92934
免疫原	ヒト Bad の Ser112 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

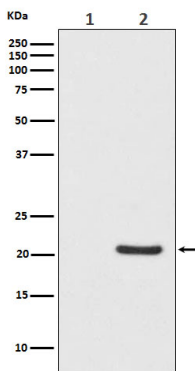
背景

細胞死を促進する。Bcl-X(L)、Bcl-2、Bcl-Wとの結合を競合し、これらのタンパク質とBAXとのヘテロ二量体形成レベルに影響を与える。細胞死を促進する。Bcl-X(L)、Bcl-2、Bcl-Wとの結合を競合し、これらのタンパク質とBAXとのヘテロ二量体形成レベルに影響を与える。Bcl-X(L)の細胞死抑制活性を逆転させることができるが、Bcl-2の細胞死抑制活性は逆転させない（類似性による）。成長因子受容体シグナル伝達とアポトーシス経路を繋ぐ役割を果たすと考えられる。

研究分野

細胞生物学

画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) カルシキュリン A 溶解物で処理した HeLa 細胞における Phospho-Bad (S112)発現のウェスタンブロット解析。